



「掃除に学ぶ会」 こんな名前を聞いたことがあるでしょうか？

掃除と言っても実はトイレ掃除のことで、掃除を通して「心と社会の荒み」をなくすことを目指した「心磨き」の会です。高校生などが、素手素足で公園のトイレを掃除し、「最初は汚くて嫌だったけど、一生懸命に磨いている内に自分の心も磨かれていった気がする。清々しい気持ちになった。」という言葉テレビや新聞で見聞きして感動したものでした。

『職場環境をきれいにすることで社員の心を穏やかにすることができるのでは』と若き日のイエローハットの創業者鍵山秀三社長1人で始められたトイレ掃除の効用は【・謙虚な人になれる・気づく人になれる・感動の心を育む・感謝の心が芽生える・心を磨く】と5つあるとのこと。この活動は自分の意志で始めることで心の成長がみられ、20年後大方の社員が掃除を手伝うようになってからはお客様からの信頼が増し、「掃除の仕方を教えて欲しい」と外部の会社から依頼がたくさん来るようになったそうです。自分たちの地域・学校・会社をきれいにすることで日本が美しくなっていく、そんな活動の世話人が青森県内にもおり、今回担当の社員の方からお話をお聞きしました。



DCM サンワ株式会社：総務・人事部：船橋典稔



“その時の出会いが人生を根底から変えることがあるよき出逢いを” (故・相田みつを先生の書より)

平成3年11月23日「恵那はがき供養祭」にて鍵山秀三氏(現㈱イエローハット取締役相談役)に出会い「私は30年間トイレ掃除を続けてきました。掃除のおかげで会社も人生も大変良くなりました」とのお話を聞き、深い感動を受けました。そしてこの感動を一人でも多くの人たちに伝えようと、地域の人たち、全国の人たちと一緒に平成5年11月6日、岐阜県明智町「日本大正村」で初めて「全国掃除に学ぶ会」を開催いたしました。 ～ 日本を美しくする会：事務局代表世話人・田中義人 談 ～

鍵山相談役の「掃除を通じて、世の中から心の荒みをなくしていきたい」との強い思いで、日本全国はもとより海外まで波及し、今では126拠点(海外4拠点)10万人以上の方々が参加しております。この日本を美しくする会「掃除に学ぶ会」青森県の代表世話人をしているのが弊社となっており、毎年8月のねぶた祭り時期に合わせて開催しています。昨年21回を数え、例年150名から250名規模の参加があり、青森市を中心とした各小中学校のトイレ掃除を体験させて頂いており、毎回多くの感動・ご賛同を頂きながら運営しております。



体験談 (株)ワールドジャンボ:イエローハット弘前店 阿部 優



平成28年8月4日開催 「第21回 青森掃除に学ぶ会 年次大会」
開催場所：青森市立西小学校
参加人数：190名

今回の掃除実習を通して感じたことは、私は朝、出社したらトイレ掃除を行っているのですが、なんと簡単に終わらせているのだろうということです。実習では便器をひたすら眺め、何百回何千回と磨いて自らの心も磨かれたように感じました。今後、もっと真剣に心を込めて毎朝の掃除をし、それを継続出来れば、いつでもみんなが気持ち良くトイレを使え、自分自身も気持ちがいいと実感しました。このことを、現場の従業員にも伝え、店舗のトイレも更に磨きをかけていきたいと思いました。また、自分の家の掃除もあまり自分ではしたことがなかったので、これを機に毎日少しずつでも掃除をしようと思いました。今回自分自身が参加したことで、日々家の掃除をしている家族に感謝の気持ちを持てるようになった気がします。周りの人に感謝をし、自らも周りの人から感謝されるような行動をとっていきたく感じましたし、確実に実行していこうと思います。

今回、このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



私のボランティア



『指笛で国際交流』指笛奏者 寺田 勝美(ピッピマン)

私は人があまりやらない事に興味があって、趣味も皆とちょっと違っているかも知れません。特に究めたものはありませんが、40年位前最初に手を染めたのが川柳(柳号・北城)です。私は身近にある材料で、誰でも分かり、クスッと笑える句にこだわって作句しています。その後、自作の句を板に彫って彩色する刻字を始めました。これらは銀行のロビーや展示場に借りていかれ、皆さんに笑われています。

次は津軽手踊り。女性群の仲間に入れてもらって十数年、毎年芸能祭や文化祭でステージに立っています。そして今、最も出番が多いのが指笛です。2オクターブ位出せるので、およそ200曲位は演奏出来るでしょう。弘前市内の小中学校の数校の校歌も覚えました。更に最近は20数カ国の国歌もマスターしました。現在、英会話サークル「グロービッシュ」に所属し、桜祭りや紅葉まつりの時、弘前公園での「もてなしボランティア」にも参加しています。英会話力はまだまだですが、私の武器は指笛。外国からの観光客を国歌で歓迎し喜ばれています。保育園や社協、公民館、老人クラブなどからお呼びがかかった時は、川柳、指笛の他、下手なマジックやジャグリングなどを織り交せて、歌わせたり笑わせたり、皆さんと一緒に参加してもらおうスタイルで楽しんでもらっています。1時間以上笑わせ続けるためには、色々な材料が必要です。さて次は何を身につけようか。挑戦は続きます。



60号に想う

ボランティアスタッフ：木村優子

2003年10月10日、今回の「ふくろう通心60号」発行の起点となったボランティア支援センターが弘前市総合学習センターに開設されてから、当時主事の小田切峰さん、ボランティア相談員の小田切幸子さんにサポートしてもらい「ふくろう通心第1号」が完成しました。現在の弘前市民参画センターに移ってからはボランティア相談員の石田美栄子さんに代わり、その石田さんが偶然にも60号と同じ60歳で定年を迎え役所を去ると聞き、第1号から携わった1人としてとても寂しく感じました。私も今年から後期高齢者の仲間入りをさせていただき、今後は時々スタッフ会議に顔を出しながら、若いスタッフの皆さまに引き継ぎたいと思っております。今後ボランティアスタッフが1人でも多く増えることを願いつつ…。



2月12日『第6回市民ボランティア交流まつり』が開催されました。各団体の皆様、ご協力ありがとうございました。また、足を運んでいただいた皆様、悪天候の中ありがとうございました。

豆知識

桜の香り

生の桜の花や葉からは香りはないのに塩漬けにすることで糖が分離して「クマリン」という成分が生成され甘い香りを放ちます。

「クマリン」による効果として、【抗菌作用】【鎮静作用】【血圧低下作用】【去痰】【咳止め作用】【二日酔い防止作用】【リラックス効果】など。リラックス気分を引き出してくれる香りは、食欲を抑えストレスによる食べ過ぎを防ぐ効果もあるとか。

これからの時季、桜の香りのお菓子が楽しみで食欲を抑えられるかどうか不安な私ですが…



編集後記

早いもので、ボランティア支援センターに配属されて9年、「ふくろう通心」も今回で60号を迎え、私もこの3月で60歳定年を迎えます。

定年なんてピンときませんが、「ふくろう通心」に関わらせていただいて、様々な事を学び、ボランティアに関しての考え方もかなり変わったように思います。

ボランティアスタッフの皆さんは、いつも協力的で、とてもパワフルに活動してくださいました。青森市や、つがる市などへ取材に出かけたことなども懐かしい思い出で、これまでやってこられたのは皆さんのお陰だと本当に感謝しております。

これからはどんな「ふくろう通心」になっていくのだろうとワクワク期待しながら、今後の皆さんのご活躍をお祈りしております。今までありがとうございました。石田

＜製作＞市民ボランティアスタッフ＜製作協力＞弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL:38-5595 FAX:36-1822
HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/

※ URL が変更になりました。
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。

